

施策目標達成度評価結果一覧表の項目について

【施策】

花巻市総合計画の政策体系に掲げる31施策。

【成果指標】

施策の目標が達成されたかどうかを測るための指標として設定している。成果指標には目標となる数値を設定し、その目標が達成できたかどうか、振り返りを行うことによって総合計画の進行管理を行う。

【達成状況】

実績値/目標値で計算したもの(数値を下げることを目標にしているものについては、目標値/実績値)

【目標達成度】

施策の成果を図る上で、もっとも重要である成果指標を選び、その達成状況をふまえ、5段階で評価を行っている(最も重要である指標には表の指標の左側に「★」印)。

目標達成度の目安は右表のとおり。

なお、右表はあくまでも目安であり、施策の目標達成度の評価は、施策に関係する課長で構成する施策別専門部会において協議のうえ評価を行っている。

評価区分	実績値/目標値
5 目標値よりかなり高い実績値であった	1.30 以上
4 目標値より高い実績値であった	1.11～1.29
3 ほぼ目標値並みの実績値であった	0.90～1.10
2 目標値より低い実績値であった	0.71～0.89
1 目標値よりかなり低い実績値であった	0.70 以下

【目標達成度の背景として考えられること】

施策の目標達成度の評価した区分について考えられる理由または、数値の増減について考えられる理由等について記載。

政策1：地域資源の連携強化で産業振興のまちづくり

施策	成果指標		前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
	指標名	単位		目標値	実績値				
1-1 2次・3次産業との融合による強い一次産業の育成	A	認定農業者数	経営体	923	1,030	913	0.89	<p>ほぼ目標値並みの実績値であった</p> <p>認定農業者数については目標達成できなかった。その要因としては、集落営農組織に認定農業者が加入したことにより、再認定を受けなかったことが考えられる。</p> <p>はなまきブランド品目数については、事業者が商品開発する際に原料、販路等について一年サイクルで開発することが困難であること、市が花巻ブランドの定義をしてこなかった(花巻ブランドをどうするかという積極的議論がなかった)こと、生産、加工、流通がそれぞれ完結型だったことにより、新たな品目数の増につながらなかった。</p> <p>しかし、はなまきブランド品目の中に含まれている雑穀商品の販売が好調であったことから、施策全体としては、ほぼ目標値並みの実績値であったと判断した。</p>	
	B	森林整備面積	ha	450	450	460	1.02		
	★	C	はなまきブランド品目数	品目	46	47	46		0.98
	D	雑穀商品販売額	千円	427,000	294,000	466,000	1.59		
	E	グリーンツーリズム旅行者数	人	2,474	3,500	3,548	1.01		
1-2 産学官連携と企業誘致による地場産業の確立	A	産学官連携や企業誘致によって市内で新たに事業展開を行った事業所数	事業所	3	3	0	0.00	<p>2</p> <p>目標値より低い実績値であった</p> <p>産学官連携や企業誘致によって市内に新たに事業展開を行った事業所数については、目標達成できなかった。その要因としては、現在、起業化支援センターで共同開発を行っている事業所があるものの、共同開発には時間を要することから19年度に新たに事業展開をした起業はなかった。</p> <p>また、パナソニックモバイルコミュニケーションズの撤退(H17)による影響が大きく、製造品出荷額の減少や地元企業との共同開発の機会が失われたことにも影響している。</p>	
	★	B	製造品出荷額	億円	2,050	2,100	1,693		0.81
1-3 空陸交通ネットワーク高度利用による企業誘致の推進	A	誘致企業による新設事業所数	事業所	4	3	2	0.67	<p>4</p> <p>目標値より高い実績値であった</p> <p>立地及び契約完了企業数4社の内、流通業務団地に3社決定した。高速交通体系を前面に出して宣伝し企業が花巻市の交通ネットワークの拠点性を理解したこと、都市再生機構の分譲価格の大幅引き下げが功を奏したと思われる。また、関係機関の連携・協力による誘致活動により企業戦略の位置づけ(交通の優位性、岩手県の木材を活用できるなど)を行ったことも成果が向上した要因の一つである。</p>	
	★	B	誘致企業による立地調印事業所数	事業所	3	3	4		1.33
1-4 賑わいのある商店街の再生	A	商店街における観光客入り込み数	人	208,000	210,000	179,700	0.86	<p>3</p> <p>ほぼ目標値並みの実績値であった</p> <p>商店街における定住人口はほぼ目標値並みの実績値であった。要因としては、住環境が整備されたため、居住者が増えた(マンションなど)、イベントなどに自らが携わり、商店街への愛着など意識が醸成された、医療機関、金融機関等の利便性が再認識されている、などが考えられる。</p> <p>商店街における観光客入り込み数は、目標値より低い実績値だった。要因としては、どでびつくり市や街かど美術館、宿場のひなまつりなど集客を伸ばしたイベントがあったが、全体としては目標を下回ったことによるものと思われる。</p>	
	★	B	商店街における定住人口	人	16,446	16,400	16,367		1.00

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
		指標名	単位		目標値	実績値				
1-5 雇用サポート体制の拡充による雇用促進	★	A	就業率	%	62.24	62.37	62.74	1.01	3	ほぼ目標値並みの実績値であった 有効求人倍率は年々改善(H17:0.62、H18:0.66、H19:0.77)している。就業率については、就業希望者へ就業に必要な情報が提供されたこと、市内大型商業施設等の開店による就業希望者の採用により目標値並みの実績となったと思われる。また、各学校でのインターンシップ等への取り組みによる影響もある。
		B	就職率(就職件数/新規求職申込件数)	%	49.80	52.00	45.30	0.87		
1-6 ICTの推進	★	A	家庭でインターネットが利用できる環境がある市民の割合(インターネット世帯普及率)	%	44.50	45.00	46.40	1.03	3	H18年12月までに市内全域でのADSL環境が整ったことにより、A:ブロードバンドインターネット世帯普及率は、目標値45.0%に対し46.4%とほぼ目標どおりとなっている。B:インターネット人口普及率については、目標値40.0%に対し40.1%で、どちらも目標値に対し高い実績値となった。その要因としては、市が工業団地への超高速インターネット整備に向けた機運醸成を行ったことや、インターネットサービスを行うケーブルテレビのエリア拡大への設備投資の支援を行ったことが考えられる。
	★	B	インターネットを利用している市民の割合(インターネット人口普及率)	%	36.50	40.00	40.10	1.00		

政策2：交流・移住人口増加で訪れたい・住みたいまちづくり

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
	指標名	単位	19年度実績値		目標値	実績値				
2-1 まちぐるみ観光サービスの産業化	★ A	観光客入り込み数	万人	292	307	285	0.93	2	目標値より低い実績値であった	観光客入込者数は、イベント数の減少、各施設入館者数の減少により目標達成できなかった。その理由として、雨天によるイベント期間の短縮(花巻まつり、石鳥谷まつり)が影響し観光客入込数が伸びなかったものと思われる。 観光客一人当たりの消費額は、観光客の飲食、お土産の購入等の費用が拡大し、消費額が上がったものと思われる。 宿泊者数については、消費者の指向、観光スタイルの多様化(個人客と日帰り)により、減少につながった。
	B	観光客一人一日当たりの消費額	円	12,650	12,710	15,311	1.20			
	C	宿泊施設の宿泊者数	人	887,191	989,100	893,898	0.90			
2-2 県内外からの移住・定住化、二地域居住の促進	★ A	市内への転入人口	人	2,757	3,090	2,675	0.87	2	目標値より低い実績値であった	市内への転入人口については、目標達成ができなかった。理由としては、団塊の世代の転入者を見込み、目標を設定していたが、ホームページ等でのPRはしているものの、転入者の増にはつながらなかった。 また、転入世帯1世帯あたりの人員が少ないこと、雇用の場が不足していることも要因として考えられる。
	B	市外在住者の市内での二地域居住者数	人	10	15	10	0.67			
2-3 人と自然が共生できる環境づくり	A	不法投棄発見箇所数	箇所	81	90	70	1.29	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	自然環境を守るための行動を実際に行っている市民の割合が増えたのは、一斉清掃やマイバック、資源回収運動等の実施による。 市民一人当たりの一般廃棄物排出量(家庭系)が減少したのは、廃プラスチックの分別基準の変更による。
	B	不法投棄回収量	t	25	26	11	2.36			
	C	河川水質のBODの県基準達成率	%	85	85.0	85.4	1.00			
	D	自然環境を守るための行動を実際に行っている市民の割合	%	90	90.0	92.3	1.03			
	★ E	市民1人当たりの一般廃棄物排出量(家庭系)	kg	176	184	173	1.06			
	★ F	一般廃棄物のリサイクル率(家庭系)	%	29.0	29.2	26.5	0.91			
	G	イーハトーブ風景指定地数	箇所	3	3	3	1.00			

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
		指標名	単位		目標値	実績値				
2-4 地域の特性を活かした適正な土地利用の推進	A	宅地化率(宅地化面積/宅地化計画面積)	%	43.1	43.8	43.8	1.00	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	目標値と実績値が同じとなった。 大型商業施設が立地となったこと、貸家やアパートの建築が増加したことから、宅地が増加したものと思われる。
	★	B 農業振興地域における遊休農地面積の割合	%	0.2	0.2	0.2	1.00			
2-5 良好な市街地の形成	A	対象地域内の住民一人当たり公園面積	m ²	13.7	13.8	14.1	1.02	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	公園、都市計画道路ともに住民及び関係者(地権者等)の事業への理解が得られ事業が計画通り順調に進んだ。 具体的な実績値は、公園整備は、三の丸公園の完成及び日居城野運動公園の一部供用開始により、目標を0.3ha上回る実績値となった。 都市計画道路の改良率は、上町花城線、小舟渡矢沢線、高木線などが0.5km部分完成したこと、目標を0.2%上回る実績値となった。
	★	B 都市計画道路の改良率	%	49.2	49.4	49.6	1.00			
2-6 快適で便利な道路網と公共交通体系の構築	★	A 市内の道路網について満足している市民の割合	%	53.6	51.3	59.1	1.15	4	目標値より高い実績値であった	市民の満足度が高いことが重要なので、道路網に対する満足度が大きく伸びたことから、目標値より高い実績と評価した。 具体的には、道路網の整備や道路舗装に関しては、必要予算の確保に努めるとともに、住民要望に沿った整備を着実に実施したことで満足度が高まったと考えられる。また、公共交通に関しては、路線や便数など現状維持を前提に、バス路線維持のための支援(補助)を行ったことで、路線数とアンケート結果は現状維持となっている。
		B 市内の公共交通機関が利用できる市民の割合	%	76.8	77.7	75.2	0.97			
		C 安全で快適に移動できる市道の割合(市道舗装率)	%	49.8	49.8	50.1	1.01			
		D 市内バス路線数	路線	31	31	31	1.00			
2-7 住み続けたい住環境づくり	A	水道の整備率	%	99.3	99.3	99.4	1.00	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	・全指標ともほぼ目標値どおりであったが、拡張整備をしていないが水道整備率が上がったのは未給水区域の人口減少が要因と考えられる。また、利用率が目標値に達しないのは高齢世帯等の利用が進まないため。 ・汚水処理施設の整備率の目標達成は、世帯密集地域の整備が多かったため効率的に進んだ、また、利用率が目標どおりだったのは、戸別訪問等の普及に活動に努めたため。 ・市営住宅の建替率は、計画通り建替工事を実施したこと、入居者の移転に対する協力を得られたため。
		B 水道の利用率	%	89.7	92.6	91.1	0.98			
	★	C 汚水処理施設の整備率	%	74.2	76.0	78.3	1.03			
		D 汚水処理施設の利用率	%	84.5	85.0	85.0	1.00			
		E 市営住宅の建替率	%	30.4	32.5	32.6	1.00			

政策3：保健・医療・福祉のネットワーク拡充で安心のまちづくり

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること
		指標名	単位		目標値	実績値			
3-1 みんなで進める健康づくり		A	三大生活習慣病における死亡率	%	61.3	60.0	59.8	1.00	3 ほぼ目標値並みの実績値であった 自分自身が健康であると考えられる市民の割合は、18年度実績に比べて20代に20%以上の上昇があったものの、30代下落、40代上昇、50代下落、60、70歳以上は横ばいと、各年代によりバラツキがある。総じて、市民全体の割合は横ばいの結果となった。 健康増進のために食事や運動に気をつけている市民の割合は、目標を上回った。 健康診査で要指導以上となった市民の割合は、目標を下回ったが前年比で横ばいとなり、増加傾向が止まった。
	★	B	自分自身が健康であると考えられる市民の割合	%	65.6	65.0	65.8	1.01	
		C	健康増進のために、食事や運動に気をつけている市民の割合	%	79.7	72.0	79.0	1.10	
		D	市の健康診査で要指導以上となった市民の割合	%	95.0	90.0	95.0	0.95	
3-2 病診連携による地域医療の充実		A	少ないと思われる診療科目の数	科目	3	3	3	1.00	3 ほぼ目標値並みの実績値であった かかりつけ医を持っている市民の割合は、目標値59.0%に対して実績値64.4%、前年比では63.7%から64.4%へと増加した。 かかりつけ医については、19年4月に健康はなまき21プラン概要版を全戸配布したほか、18年度の保健大学では「病診連携」をテーマに年間8回の講座を開催するなど、市民啓発に努めている。
	★	B	かかりつけ医を持っている市民の割合	%	63.7	59.0	64.4	1.09	
3-3 高齢者や障がい者がまちで暮らす真のノーマライゼーションへの取り組み		A	住み慣れた地域で暮らしている高齢者の割合	%	97.5	97.5	96.4	0.99	3 ほぼ目標値並みの実績値であった 意識調査の指標であるCとDについて前年度の数値は下回っているが、それぞれ目標値を上回っている。
		B	住み慣れた地域で暮らしている障がい者の割合	%	97.2	97.3	97.0	1.00	
		C	生きがいをもちて暮らしている高齢者の割合	%	78.8	73.0	75.1	1.03	
	★	D	住民同士で助け合える風土があると感じる市民の割合	%	61.7	60.0	61.0	1.02	

政策4：地域で支える子育てと教育のまちづくり

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
	指標名	単位			目標値	実績値				
4-1 安心して育てることができる子育て支援の充実	A	放課後に居場所がある子どもの割合	%	85.0	88.0	83.4	0.95	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	A: 昼間家庭にいない保護者が増加している。 B: ファミリーサポートセンターの会員登録は10%を超える増加率である。 C: 子育てしやすいまちだと感じている市民の割合が前年対比1.1ポイントの減少したが50%を超える水準である。
	B	ファミリー・サポート・センター会員登録者数	人	689	702	819	1.17			
	★ C	子育てしやすいまちだと感じる市民の割合	%	52.9	49.5	51.8	1.05			
4-2 活力と特色ある学校教育の推進	A	学校生活が充実していると答えた児童生徒の割合 (小学生)	%	92.0	95	91.5	0.96	2	目標値より低い実績値であった	B: 学習定着度状況調査については、調査実施に当たり全県で設定された「概ね定着した」とする到達度の目安が小学校80%、中学校75%であり、全小中学校が目標とする数値より低かった。 この結果から考えられる要因として、平成19年度は全県的に低い結果であったことから、18年度より19年度の方が調査内容の難易度が高かったことが考えられる。さらに、基礎、基本の定着を図る取り組みが全体的に弱かったことが考えられる。 C: 不登校児童生徒の出現率については、前年度比0.2%減を目標値としているが、小学校(0.39%)は県平均を大きく上回っている状況である。
		(中学生)	%	87.0	90	80.0	0.89			
	★ B	学習定着度状況調査の到達度 (小学生)	%	73.4	80	72.8	0.91			
		(中学生)	%	66.1	75	61.8	0.82			
	C	不登校児童生徒の出現率 (小学生)	%	0.49	0.26	0.39	0.67			
		(中学生)	%	2.60	2.00	2.17	0.92			
	D	児童生徒栄誉賞受賞割合	%	7.36	7.50	7.29	0.97			
	4-3 競技・生涯スポーツの推進	★ A	日頃からスポーツに取り組んでいる市民の割合	%	46.5	43.0	47.4			
B			県民体育大会の入賞者数(個人もしくは団体)ベスト4以上	件	73	70	73	1.04		

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること
		指標名	単位		目標値	実績値			
4-4 創造性豊かな芸術文化の振興	★	A	日頃から芸術文化活動に親しんでいる市民の割合	%	16.6	16.0	17.2	1.08	3 ほぼ目標値並みの実績値であった Aの場合は、合併により芸術文化に触れる機会が多くなり、市民の活動範囲が広がってきたことによるものと考えられる。 Bのアンケートは毎年同じ項目で設定しているために、項目に慣れた人が増えていることによるものと考えられ、設問方法の見直しが必要と思われる。
		B	地域の歴史や文化に触れている市民の割合	%	47.8	45.0	41.7	0.93	
4-5 豊かな心を育む生涯学習の推進	★	A	学習テーマをもって日頃学習に取り組んでいる市民の割合	%	15.6	16.0	18.2	1.14	4 目標値より高い実績値であった 振興センターでの生涯学習の場の提供に加え、夜間講座の実施や講座内容の充実を努めてきた結果、平成20年5月に実施した市民アンケートでは、目標の16%を上回る18.2%となった。

政策5：都市内分権構築で市民参画・協働のまちづくり

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
	指標名	単位	目標値		実績値					
5-1 小さな市役所構想と協働の推進	★ A	まちづくり活動に参加している市民の比率	%	68.8	66.0	71.2	1.08	4	目標値より高い実績値であった	成果指標である地区で課題解決した件数の割合については、総課題件数は2,012件であり、課題解決した件数は956件であった。目標値より高い数値となったのは、H18実績値が未把握であり、目標値を推定値として計上していたためである(生活に密着した課題に取り組んだため、解決件数の増加につながったこともある)。また、アンケート結果から得られたまちづくり活動の市民参加率についても、前年度と比較すると増加、当初設定した目標値もクリアした結果となっている。以上のことから左記のとおりと判断した。
	B	地区の総課題件数のうち、地区で課題解決した件数の割合	%	未把握	20.0	47.5	2.38			
5-2 NPOの活動促進と支援	A	NPO数(NPO法人、ボランティア、市民活動団体)	団体	144	147	146	0.99	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	A、Bについては前年より増加しているが、目標並みの実績であったこと。Cについては目標値より実績値が上回っているが、前年の実績と比較すると微増にとどまっている。以上のことから、左記のとおり目標値並みと判断した。
	B	NPO構成員数(NPO法人を除く)	人	3,883	3,910	3,909	1.00			
	★ C	この1年間にボランティア活動やNPO活動に参加したことがある市民の割合	%	29.3	27.0	30.9	1.14			
5-3 防災体制・減災対策の拡充	★ A	火災件数	件	40	40	48	0.83	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	火災件数については前年より増加したが、これは野火火災の割合が高く、建物火災については前年とほぼ同数であった。野火と建物火災を比較した場合、被害の度合いが大きいのは建物火災、また野火については気象条件に左右される(雪の多い年は少ない傾向)ことから、ほぼ目標値並みと判断。また救急講習受講者数、意識調査の結果については前年より減少しているが(意識調査についてはアンケートの誤差による横ばいと判断)、設定した目標値とほぼ同等である。以上の3つの成果指標を分析した結果、左記のとおりほぼ目標値並みと判断した。
	B	救急救命講習会受講者数	人	4,344	4,000	4,149	1.04			
	C	水や食料、備品等を備蓄している市民の割合	%	17.0	17.0	16.6	0.98			
5-4 身近な生活安全の確保	A	交通事故件数	件	453	435	470	0.93	3	ほぼ目標値並みの実績値であった	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故件数及び死傷者数はこれまで減少していたが、19年度になって増加した。 刑法犯認知件数については、大きく減少した。 防犯を意識した行動をとっている市民の割合は、微減した。 この1年間に消費者トラブルに遭った市民の割合は、増加した。
	★ B	交通事故死傷者数	人	581	580	612	0.95			
	C	刑法犯認知件数	件	744	830	695	1.19			
	★ D	防犯を意識した行動をとっている市民の割合	%	86.5	87.0	86.0	0.99			
	E	この1年間に消費者トラブルに遭った市民の割合	%	1.5	1.0	1.6	0.63			

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること
		指標名	単位		目標値	実績値			
5-5 男女共同参画社会の実現推進	★	A	男女共同参画社会という言葉・意味を知っている市民の割合	%	50.4	45.0	51.6	1.15	3 ほぼ目標値並みの実績値であった ・男女共同参画について市広報紙に定期的に掲載及び花巻地域の振興センターでの寸劇開催による啓蒙活動の実施。 ・講座開設を4地域での開催による微増。 ・男女共同参画推進員及び各団体の講演会、講座への積極的参加呼び掛けの実施。 ・市民意識調査の結果である指標を分析すると、微増した結果になるが、これはアンケートによる誤差もあることから、前年度ほぼ同水準と判断した。
		B	職場・学校における男女の平等が図られていると考える市民の割合	%	45.1	44.0	45.1	1.03	
		C	地域における男女の平等が図られていると考える市民の割合	%	43.1	42.0	43.5	1.04	
		D	市審議会委員等に占める女性の割合	%	24.6	25.0	26.5	1.06	

政策6：市民本位の行政のまちづくり

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること	
		指標名	単位		目標値	実績値				
6-1 便利で質の高い市民サービスの提供	★	A	窓口サービスがより利用しやすく便利になったと感じる市民の割合	%	53.9	50.0	54.0	1.08	4 目標値より高い実績値であった	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口サービスがより利用しやすくなったと感じる市民の割合については、平成18年度とほぼ同じ数値であったが、目標は達成した。 ・土日の証明書等の取扱件数については、市民に土日開庁が広まり、利用が促進され、目標値を上回った。 ・電子申請サービスの利用件数については、目標設定時に想定していなかった図書貸出予約電子サービスの利用により、目標値を上回った。 ・市民カード交付件数については、合併により旧3町の市民カード新規登録者が増加し、目標値を上回った。
		B	土日の証明書等の取扱件数	件	4,304	3,800	6,575	1.73		
		C	電子申請サービスの利用件数	件	0	100	1,064	10.64		
		D	市民カード交付件数	件	27,387	25,200	29,156	1.16		
6-2 職員の意識改革と行政システム改革の推進		A	評価で改革改善することとした事務事業数	事業	-	910	220	0.24	3 ほぼ目標値並みの実績値であった	<p>事務事業評価によって改革改善することとした事務事業数については、実施計画に掲載する主要事業を評価対象としているため、達成できなかった。(計画策定時は、人件費のみの事業を含めてすべての事務事業を評価対象と想定していた。)</p> <p>改革改善することとした事務事業の割合については、ほぼ目標値並みの実績値であった。</p> <p>事務事業評価によって改革改善が図られた事務事業数とその割合については、継続事業の事後評価が平成20年度からとなったため、成果の把握は21年度になる。</p>
	★	B	評価で改革改善することとした事務事業の割合	%	-	70	67	0.96		
		C	改革改善が実施された事務事業数	事業	-	293	-	-		
		D	改革改善が実施された事務事業の割合	%	-	23	-	-		
6-3 柔軟な人事システムと組織制度の構築	★	A	削減した職員の数	人	44	60	80	1.33	4 目標値より高い実績値であった	<p>成果指標のAとBは運動するものであり、基本となるA(職員の削減数)が目標値よりも高い実績であったこと、組織のフラット化はH22年度の一斉実施も目指していることから、目標値より高い実績値と評価した。</p> <p>具体的には、職員数の削減においては、権限・事務移譲に伴う増要因はあるが、行政組織や事務事業の見直し等(指定管理者制度の強化や事務部門以外での削減を進めた)により、職員数の削減は目標を上回る数値を示した。</p>
		B	職員1人当たりの市民数	人	93	94	94	1.00		
		C	組織がフラット化された課の割合	%	35.8	35.8	35.8	1.00		

施策	成果指標			前年度実績値	19年度		達成状況	目標達成度	目標達成度の背景として考えられること
	指標名	単位	目標値		実績値				
6-4 情報公開の推進と 広報広聴活動の強化	A	市の広報紙を読んでいる市民の割合	%	88.9	87.0	86.5	0.99	3	<p>ほぼ目標値並みの実績値であった</p> <p>(A) 広報はなまきを読んでいる市民の割合は、昨年度から高い実績値を示しており、平成19年度においても写真や図を活用するなど、読みやすさに工夫を凝らしている。</p> <p>(C) 市民懇談会の延べ参加者数は、平成19年度は市内全地区で開催するのではなく、開催を計画した地区のみの参加者数としたことから、実績値が目標値を下回った。</p> <p>(D) 市民の意見に耳を傾けていると感じる市民の割合は、「おじゃまします。市長です。」の実施や市長へのはがき、メールなどにより、市長が市民の意見を聴く機会が多かったため、目標よりも高い実績となった。</p>
	B	市役所からタイムリーに情報提供されていると感じる市民の割合	%	41.6	40.0	41.1	1.03		
	C	市民懇談会等の延べ参加者数	人	1,466	1,550	398	0.26		
	★ D	市役所が市民の意見に耳を傾けていると感じる市民の割合	%	33.3	27.0	36.6	1.36		
	E	市政へ反映した市民意見数	件	96	120	141	1.18		
6-5 持続可能で自立性の高い健全財政の確立	A	自主財源比率	%	36.3	35.0	38.0	1.09	3	<p>自主財源比率(繰越金、財政調整基金繰入金等の増により達成)、市債発行額(H20への繰越、事業費の減により達成)、経常収支比率(分母となる経常一般財源のうち普通交付税及び臨時財政対策債の減により達成できなかった)、実質公債費比率(公営企業繰出金の算出ルールが変更となったことにより達成)</p> <p>ほぼ目標値並みの実績値であった</p>
	★ B	市債発行額	千円	4,681,300	6,563,600	6,019,900	0.92		
	C	経常収支比率	%	88.1	85.5	88.8	1.04		
	D	実質公債費比率	%	19.0	20.7	19.6	0.95		